

## 中学部二年B組

### 約束

ブランコを揺らしながら  
つぶやいた言葉  
「ずっと」  
夏の風と一緒に  
私は遠く離れた  
私たちの中で  
似たような不安が  
つながっている  
別々の道を歩いても  
同じ空の下  
忘れない小さな声  
あの夏の約束

### 新学期

教室の音はなじむが、  
どこか違う知らぬ声  
ひとりひとりが新しい  
クラスではよく笑って  
なごみだす  
このままで

ユヌス 乃和

陳 オリビア

一年過ぎると

思えたよ

きつと今年

すばらしくなる

そんな気がする

サンクスギビング

中田 昊

夕暮れに 家族寄り合い 笑い声 収穫の香り 心ほどける

新年

塚本 達也

年すぎし 瞬きする間 悔いのこし 新年迎え 変化の決意

東芝見学体験

尾根 新太

僕は今日東芝工場に行って、ヒューстонで何を作っているのかを見ました。

まず東芝には約千人の従業員がいます。敷地面積はなんと二十六万平方メートル。東京ドーム六個分と考えると、とんでもない大きさでびっくりしました。そして、小さいモーターから大きいモーター、ハイブリッドカーのモーターまで作っているそうです。また、製品設計や技術は日

本、製造設計はヒューズトンで行い、二つの技術をうまくかみ合わせているのだそうです。それで僕たち、お客さんにより安く良い製品を届けることができるのです。

また別にジェネラルモーターは、薄い鉄を四百枚ほど重ねて厚くして作っています。それから、コアと呼ばれる周りにいくつかの穴が開いている部分に、一つずつ接着剤をロボットで付けていきます。コアは約三キログラムほどあるため、それもロボットで運んでいます。接着には約一分間半かかると言っていました。

今回の体験で、東芝のことをより深く知ることができて、とても楽しかったです。東芝の皆様、貴重な体験をありがとうございました。

東芝工場を見学して

宇津澤 拓

日本語補習校の最初の遠足で東芝工場に行きました。この工場では、ほかの会社に売るためのモーターを作っています。最初に工場に入った時、ビルの大きさとうるさに驚きました。いくつもの会議室があり、作業場もとても広かったです。機械の音がうるさいので、作業員はみなイヤーマフをしていました。

この工場では、人間と機械が協力して部品を作っています。作業員は、長い時間働いているそうです。高価な機械を使って、細かい作業をしていました。沢山の作業員が分担してモーターを作っていました。ある作業員は機械が正しく動作しているか監視し、違う作業員は機械ができない作業をしていました。

見学している間に、たくさん疑問がわいてきました。工場の中で一番たくさん売れているものは何か、どうしてテキサス州ヒューズトンに工場を作ることにしたのか、なぜ全然関係がなさそうな物を作っているのかを知りたかったです。

電気や工場の働きについてたくさん学びました。もう一度見学する機

会があれば、もっと作業の順番に注目したいです。

東芝工場の皆様、見学させてくださって、ありがとうございました。

バトンを繋げて見える景色

竹下 陽太

あの日、僕はヒューズトン日本語補習校運動会で長年思い描いていた舞台に立つことができました。それは運動会のハイライト、リレーに出場することです。

今年までは落選したり、選抜の日がサッカーの試合と被っていたのです。時が経つにつれ、夢が目の前で崩れていくのを実感しました。諦めかけていた時、僕には僅かな希望が見えてきました。今年のリレー選抜の土曜日は、偶然にもサッカーの試合がなく、選考会に出ることができたのです。その結果、僕はようやく念願のリレーの選手に選ばれました。

運動会当日、僕は緊張しながらも会場に向かいました。放送係とラジオ体操係の仕事をやリ遂げ、ついにリレーの順番になったのです。放送席からは小学六年生の実況が響き渡り、会場の冷気が鼻を突き抜けてきました。僕は自分の緊張を間違いなく感じていました。

スタートの合図がなり、一列に並んだ四人が勢いよく飛び出しました。第一走者、第二走者と順調に進み、ついに第三走者が走り始めました。第四走者の僕は後ろを向かず、手に手を差し出しました。次の瞬間、冷たいバトンの感触が手に伝わり、僕は走り出したのです。無我夢中で走り、自分の順位も分からないまま次の走者にバトンを繋ぎました。自分の番が終わり、ふと見上げると、観客や選手の緊張と喜びの表情が目に入りました。この時に僕は、この景色のために走っていたのだなと思えました。

結果は三位の成績でしたが、僕が初めて経験した、あの時に見た景色と胸の高鳴りは、今も僕の中に強く残っています。

## 夏休みの思い出

パソロミュー トロイ

今年の夏も日本に行きました。しかし、高校のマーチングバンドの練習が夏休み中に始まるため、いつもより早くアメリカに帰って来なければなりません。それでも、日本では沢山の思い出ができました。

一番心に残った思い出は、祖母と一緒に過ごした事です。買い物に行ったり、ご飯を食べに行ったり、葛西臨海公園に遊びに行きましたが、トランプやウノをして遊んだ事が一番おもしろかった思い出です。来年は、上野動物園と一緒に行く約束をしたので、今から楽しみです。

二つ目の思い出は、日本国内を旅した事です。祖母の家は東京なので、東京以外の所を旅ができ、とてもわくわくしました。セントレアでのフライトシュミレーター体験や、大阪万博で色々な国の文化を学べたのも良い経験でしたが、一番楽しかった所は四国です。道後温泉では、のんびり温泉につかり、アンパンマンミュージアムでは、作者のやなせたかしさんの他の本や漫画の事を知りました。電車の旅では、おいしいお弁当を食べ、金刀比羅宮では、苦しかったけど、奥社まで行って、射撃やうどん作りも楽しめました。

三つ目の思い出は、航空科学博物館に行った事です。楽しかった理由は、僕は飛行機がとても好きなのでうきうきとしたし、将来の夢パイロットになるためにたくさん学べたからです。そこで一番楽しかった事は、フライトシュミレーターです。将来のために行けたので、すごく心が踊りました。

最後の思い出は、友達と外で遊んだ事です。今年は、子供達だけで少し遠くに自転車で遊びに行ったり、昼ご飯を食べに行けたので感激しました。僕の友達以外でも母の友達にも会いました。日本でしか会えない友達なので、僕と母はすごくうれしかったです。

この四つの思い出で、僕の夏は充実したものになりました。来年の夏も、素敵な体験ができるよう願っています。

## デイズニーワールドへ

川崎 都理

僕は今年の夏休みに、フロリダ州のデイズニーワールドへ行きました。アナハイムのデイズニーも行ったことがあるのですが、まだ自分は五歳ぐらいで、覚えていません。日本の東京デイズニーは行ったことが一度もないので、はつきりとしたデイズニーは今回が初めてです。

初日、僕はデイズニーに着いて、スリンキー・ドッグに乗りました。僕は浮遊感が苦手でしたが、このスリンキー・ドッグに乗ってから、アトラクションが得意になりました。しかし待ち時間が長すぎて、ちょっと萎えました。

二日目はアニマルキングダムに行きました。ここでは、一番人気のアバターに乗りました。匂いがあったり、水が飛んできたり凄くリアルな4Dでした。

三日目は、ビックバンのジェットコースターがすごく印象に残りました。

このフロリダ旅行は人生の行った所のランキング上位だったので一生忘れないと思います。

## 祖父と二人旅行第二弾

遠藤 慶

今年も日本で祖父と二人旅行をしました。最初に愛媛県松山市に行きました。松山城と道後温泉に行きました。道後温泉では、本館と飛鳥乃温泉に入りました。日本で最も古い温泉は、思ったよりもシンプルでした。

次の目的地は、熊本県の阿蘇市です。熊本では線状降水帯が発生してしまい、計画していた事ができず残念でした。指宿温泉は砂風呂で、とて

も興味があったので、体験してみたかったです。阿蘇山は自然の大きさに驚きました。初めて見た火口の大きさにもびつくりしました。

最後の目的地は沖縄です。首里城と美ら海水族館へ行きました。首里城は工事中で見られる所が限られていて、もう少し見られたらよかったです。

今回の旅では、色々な電車に乗りました。また日本には色々な電車があるのだと知りました。たくさんラーメンを食べて、一番おいしかったのは、別府で食べたとんこつラーメンです。祖父と二人で平和でとても楽しかったです。

### 私の韓国旅行

野田 麻央

この夏、私は韓国に行きました。韓国で一番心に残っているのは海東龍宮寺と韓国料理です。

海東龍宮寺は海の岩場に建てられた珍しいお寺です。このお寺は一三七六年に高麗時代の僧侶、オン僧侶によつて設立されました。もともとは「文門寺」と呼ばれていましたが、辰の合戦で焼け落ちました。一九三〇年代に再建され、一九七四年にお寺の名前を「海東龍宮寺」に変えられたことがわかりました。

お寺に向かう途中に百人段の階段があります。この階段を下りることで煩惱を取り去り、お寺で心から祈りさえすれば必ず一つの願いを兼ねてくれると伝えられていることもわかりました。この煩惱は百人種類あると言われています。

日本にも同じような言い伝えがあります。それは大晦日の夜に鳴らす除夜の鐘です。除夜の鐘も百人回鳴らし、煩惱を取り除くと言われています。同じ仏教なので同じような意味があると思います。

お寺には色んな色のランタンが吊るされていてとても綺麗でした。また海側から見るお寺は絶壁の上に建てられていて、空と海のコントラスト

トがとても良かったです。

もう一つ心に残っているのは、韓国料理です。その中でも一番美味しかったのは「ナクチポックム」という郷土料理です。「ナクチ」とは手長ダコで、「ポックム」とは炒めるという意味です。私が食べたのは真っ赤なソースでタコ、エビ、ホルモンを炒めた鍋でした。すごく赤くて辛そうだなと思いましたが、私は辛い食べ物が好きなので、食べるのが楽しかったです。でも思ったほど辛くなかったので、辛い食べ物が苦手な家族でも美味しく食べられました。ホルモンとタコがとても柔らかくて食べやすかったです。

アメリカでも時々スンドゥブを食べに行きます。でも本場のスンドゥブはもっと辛かったけれど、コクがすごくあったので、私は本場の味のほうが好きでした。

今度韓国に行くときは友達とソウルに行ってみたいです。きっと違う郷土料理や歴史があると思います。

### なぜ私は日本語を学ぶのか

梅野 莉那

私は、アメリカ生まれ、アメリカ育ちです。だから、もし親に日本語を学べるようにしてもらっていないければ、せいぜい一、二、三を日本語で言えたくらいでしょう。そんな私の、日本語を学ぶ理由を説明したいと思っています。

まずは、家族や友達とコミュニケーションを取るためです。私の祖母は、どちらとも日本に住んでいます。だから、会えるのは年に一回、夏休みだけです。せめて会う時は、きちんと会話をしたいと感じ、努力しています。また、私には日本に引っ越してしまつた綾子という親友がいます。彼女とは知り合ってからもう六年も経っています。今でも毎日連絡を取り合っています。そんな彼女とまた再会したとき、めいっばい楽しめるように私は日本語を学んでいるのかもしれない。

さらに、どうやら私は日本語の方が頭に入ってきやすいようです。例えば、以前「ハリーポッター」という本を英語で読んだのですが、その時はあまり面白く感じませんでした。しかし、一年後、ためしに日本語で読んでみると、感動するほど読みやすく、一つ一つの言い回しが分かりやすかったせいか、すらすら読むことができました。また、音楽も日本語しか聞きません。日本語特有の言い回しや言葉選びのある曲を聴いたり考察したりすることで、私は楽しく日本語を勉強できているのでしよう。

日本語は、私の中ではコミュニケーションツールであり、娯楽でもあります。これからも引き続き日本語を楽しく学習したいと思います。

### たいせつな日本語

りう かんの

私が日本語を学んでいる理由は、三つあります。

まず、家族と日本語で会話をしたいからです。私の母は家でいつも日本語を話していますが、私の思っていることが伝わらないことがあるので、母と日本語で自然に話せるようになります。また、私の祖母は日本に住んでいて、日本語しか話せないのです。私も日本語がもっとわかるようになって、祖母とお喋りも今よりも楽しくなると思います。

次に、日本の友達ともっと仲良くなりたいたいです。毎年夏休みになると日本に行き、現地の中学校に通っています。小学校二年生のときからの仲の良い友達がいて、その友達と話す時間はとても楽しいです。ですが、言いたいことをうまく言えず、もどかしく感じることもあります。もっと日本語を学んで、友達と親密な会話ができるようになれば嬉しいと思います。

最後に、日本で友達と旅行や食事をしたいたいです。将来、もう少し大きくなったら、日本で友達と旅行してみたいと考えています。また、食いしん坊な叔父の達ちゃんと食事に行った時には、私が日本語ですらすら食べ物注文してあげたいです。

このように、私には日本語を学ぶ理由がたくさんあります。だから、日本語を学ぶことは、私にとってとても大切なものです。

### 私の大親友

北山 心結

私が、大親友のアドレンと出会ったきっかけは、小学四年生の時のバスケットの練習だった。チームの中で、私達以外みんな年齢が一つ上だったので、同級生のアドレンとはすぐに仲良くなれた。最初の頃、アドレンはちよつと気弱そうな印象だった。恥ずかしがり屋で、誰とも話していなかったため、私から声をかけてみた。そうすると、思った以上に話さふくらんで、私はとても嬉しかった。

親たちも親しくなり、出会ってから半年が経った頃、彼女のお母さんがウォーターパークにさそってくれた。お友達と遠出するのは初めての経験だったので、最初はちよつと緊張したけれど、とても楽しかった。その頃から、学校のランチも一緒に食べるようになった。アドレンと食べていると、話が止まらず時間が一瞬で過ぎていった。アメリカに来てから、こんなに親しくなれたお友達は初めてだった。今でも、お母さんが一ヶ月に一回くらい遊びに誘ってくれる。先週はスリープオーバーをして、今日は補習校の後、ハロウィンのダンスパーティーに行く予定だ。

アドレンは、以前と比べて性格がだいぶ変わったと思う。静かでひかえめな女の子だったが、今は明るくにぎやかで、一緒にいる時はいつも笑いが絶えない。また、お互い積極的になれるようになった。毎年バスケットのトライアウトを受けて一緒に練習を続けているし、学校のライブラリーのボランティアも二人でやっている。

アドレンと出会ってから、私の友達の輪はどんどん広がっていった。仲良しの友達グループができて、お誕生会をしたり、皆んなの家に泊まりに行ったり、地元のフットボールゲームの応援に行ったり、教会のイベントに誘ってもらったりして、私はアメリカ生活を楽しくめるようになった。

った。これら全てのきつかけを作ってくれたのが、アドレンとの出会いだ。だから、私は日本に帰ってからもずっとアドレンと親友でいたいと思っている。

磯野 風沙

### 今の自分と昔の自分

益本 翔大

ふと過去を振り返り、昔の自分を思い返してみたことはあるだろうか。僕は昔、行動力があり活発な子だった。学校から帰ってきたら、すぐ友達と遊びに行ったり、初対面の人にも臆せず話しかけるような子だった。あの頃は、ただ、何も考えず、学校に行って勉強して、友達とワイワイ遊んで、全てが順調に感じた。

だが、二〇二〇年のコロナ流行で全てが激変した。コロナ流行に追い打ちをかけるように、僕たちは父の赴任先であるアメリカに来たことで人と会う機会が激減し、また、言葉と文化の壁のせいで僕の周りは静かになってしまった。というのも、現地校のクラスメイト日本人は僕一人、英語が喋れなかった僕はコミュニケーションをとることもまともに出来なかったからだ。

あの頃の僕は、学校で一人ぼっちでいることが多かった。それが約一年くらい続いた。だからなのか、今の僕は昔ほど行動力がなく、日本語も下手になったと思う。人と喋るのが苦手になったし、喋り方もなんとなくこちなくなかった。それでも、アメリカに来てからの五年間、一生懸命勉強してきたことで、英語を話せるようになり、色々な国の友達もでき、補習校でもいい仲間にも恵まれ、色々なことを頑張ってきたことで少しずつ成長してきた。

昔となりたかった自分とは今の自分は違うかも知れないけれど、これから僕は新しい自分を見つけ、もっと自由にもっと強く生きていきたい。そのために、失敗を恐れず自分から一歩踏み出す勇氣を持ち、自分を信じて一歩ずつ前に進んでいきたい。

### 【創作文】私は訴えた

「みなさん、来週はフィールドトリップで野球場に行きます。」先生が言った。どうやら野球場に屋根はなく、その代わりに生徒には無料でソーダとホットドッグが配られるらしい。

「帽子と、水と、クレジットカードね。」

お母さんがわざわざ用意してくれた。野球場では現金は利用不可だが、クレカならいけるのだろうか。それは初耳だ。野球場にはセキュリティ上、開封済みのペットボトルは持ち込めない。野球場に入るまでは、水を飲むのは我慢するしかない。

当日、ドキドキしながらバスに乗った。途中、バスで水を飲んでる子がいた。開封してしまったら、野球場に持ち込めないのと思っていたら到着した。でもその子は、開封済みのペットボトルを持ち込んでいた。

その後、列ごとにホットドッグが配られたが、ソーダに関しては何も言われない。隣の席の子が、先生にソーダに関して聞いた。何とソーダではなく、水のみが無料だったのだ。

そして、ここから四時間の地獄が始まった。他の人はジュースやポテトを買っているが、高いので我慢した。

体が熱い、熱い、熱い。水はぬるい。水を飲んでも治らない寒気がした。頭も痛い。

「倒れる。」

直感した。だから高いジュースを買った。よし、これで治る。

「あ、れ？」

私は気づいたら救急車に乗って、病院に運ばれていた。

「あと一週間は入院です。」

医者が言った。学校にも行けなかった。

「訴えてやる。お金もなくなり、後遺症も残った。」

そう心に誓った。病院でもらった診断書、その日の気温の記録、そしてソーダが無料と書いてあるチラシ。ソーダが無料だと思っていたから冷

たい水は持つて行かなかった。よし全て揃った。私は訴えた。

「私はソーダが無料とのチラシを見て、冷たい水を持つていかなかった。証拠はこれです。」

「熱中症になるリスクは分かっているはずだ、冷たい水を持つてくるべきだった。」

そう言われ、私は裁判に負けた。悔しかった。お金がないので裁判は一回のみ。

私は裁判官と先生を、一生恨むことになった。

### 【創作文】白雪姫のその後

早瀬 優

白雪姫とは、グリム童話に出てくる一つの物語で、多くの人たちに愛されている作品です。

ある国に、白雪姫という雪のように白い肌の美しいお姫様がいました。そして、白雪姫の継母、女王は白雪姫の美しさを妬み、彼女を殺す計画を立てました。ですが、計画は失敗に終わり、白雪姫は素敵な王子様と結婚し、幸せな人生を送りました。

ここからは、オリジナルの白雪姫の物語です。

その後、王子様と結ばれ、一国の女王となった白雪姫は、子宝にも恵まれました。娘の名前はリンゴ姫です。リンゴ姫は白雪姫似の白い肌、りんごのような唇に、元気な性格で、住民たちからとても慕われていました。ですが、白雪姫はリンゴ姫が誰かに妬まれ、自分のように危険な目に遭うのではないかと、いても立ってもいられませんでした。

ある日、白雪姫の国に世界で五本の指に入る魔女がやってきました。白雪姫は人知れず魔女に会いに行き、耳を疑うような事を頼みました。

「お願いします。どうか、私の娘を醜くしてください。そうすれば、誰もリンゴ姫を妬まず、幸せな人生を送れるはず。」

魔女は白雪姫の頼みを承諾し、魔女は白雪姫に真っ青なリンゴを渡し

ました。

その晩、白雪姫はリンゴ姫に真っ青なリンゴを食べさせ、リンゴ姫は幸せそうにベッドで眠りました。

翌日、リンゴ姫は衝撃を受けました。一晩で彼女の顔は醜くなりました。慌てたリンゴ姫は、両親の元へ向かい助けを求めました。両親はリンゴ姫を落ち着かせ、学校に向かうように促しました。

学校でのリンゴ姫は、みんなの人気者でしたが、学校に着くと、誰もリンゴ姫だと気づきませんでした。普段、リンゴ姫と仲の良いクラスメイト達も、彼女がリンゴ姫だとは信じず、彼女を不思議がり、コソコソと話す声がリンゴ姫まで届きました。彼女は、注目されるのも怖くない、悪口など気にしたことはありませんでしたが、ですが、彼女は一日中ただ自分の席で俯いていることしかできませんでした。彼女は、泣きながら帰宅し、部屋に閉じこもってしまいました。

リンゴ姫は顔が醜くなったことよりも、誰にも気付かれなかったことがとても辛く、寂しかったのです。

白雪姫は自分のせいで、リンゴ姫を悲しませてしまったことを酷く後悔しました。その後、リンゴ姫を元に戻すため、もう一度魔女の元へ行き、真っ赤なリンゴを貰いました。ですが、代償として、リンゴ姫が元の顔に戻れば、白雪姫はもう二度とリンゴ姫とは会えない、会えばリンゴ姫の幸せは一生訪れないと言われました。

それでも、白雪姫はリンゴ姫に真っ赤なリンゴを食べさせました。リンゴ姫は元通りになった顔を見て、友達ともいつも通り笑い合え、安心しました。顔が元通りになって以来、白雪姫とは会うことはできなくなりました。

そして、白雪姫は行方不明になり、新しく美しい継母が訪れました。継母のリンゴ姫へのあたりはキツく、リンゴ姫を酷く妬み、憎んでいました。白雪姫の継母のように。